

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890100104
法人名	社会福祉法人ともの家
事業所名	アンジュールともの家
所在地	松山市溝辺町甲9 4
自己評価作成日	平成23年1月30日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年2月7日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>家族が協力的で、敬老会や大掃除には全入居者の家族が参加してくださったり、毎日のように来訪してくださる方もいて、職員とともに入居者を支えてくれるケアパートナーとしても心強いです。また、秋には家族による写真集が出版されました。現在、感染症予防が目標で手洗い、うがい、換気に注意していますが、特に換気に力を入れています。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>法人事業所合同の「家族会」では「家族会だより」を発行されている。ご家族たちが利用者と職員の日常をご家族の視点で捉えた写真展をデパートで開催し「写真集」にして出版された。事業所では「音への配慮」から、スリッパを履かず過ごしておられる。食堂の椅子の足は布で覆っておられた。玄關には、利用者が散歩時に摘んで来られた菜の花を飾り、テーブルには庭の水仙やさざんかが飾られていた。足踏み式のミンソを使ってぞうきんを縫ってくださる利用者もおられ「今後は、バザーに出すものも作っていただきたい」と話しておられた。</p>
---

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. <b>毎日ある</b> 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. <b>ほぼ全ての利用者が</b> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. <b>ほぼ全ての利用者が</b> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. <b>ほぼ全ての利用者が</b> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30,31)	1. <b>ほぼ全ての利用者が</b> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	1. <b>ほぼ全ての利用者が</b> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. <b>ほぼ全ての家族と</b> 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない  1. <b>ほぼ毎日のように</b> 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない  1. 大いに増えている 2. <b>少しずつ増えている</b> 3. あまり増えていない 4. 全くいない  1. <b>ほぼ全ての職員が</b> 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない  1. <b>ほぼ全ての利用者が</b> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない  1. <b>ほぼ全ての家族等が</b> 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 アンジュールともの家

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏名

菅原佐代子

評価完了日

平成23年1月30日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 利用者サービスの基本方針の中で「家族、友人、地域との交流を大切に、社会性の維持、回復に努める」とかかっている。地域に向けて、バザーロビー展を年4回実施して交流を深めている。 (外部評価) 事業所の理念を基に職員で話し合い、年間目標・月目標を決めて取り組んでおられる。今年度は「アセスメントの充実」「地域に広げて行く」と目標を立てておられた。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 自治会に加入しており、地域の方と防災訓練をしたり、ごみステーションの話し合いをした。また、夏祭りや秋祭りの行事に、地域の子どもたちが来訪して交流があった。 (外部評価) 近くの「ごみステーション」の使用について、地域の方からのご意見もあって地域の方とも話し合い、事業所専用のごみ置きを設置された。法人で開催しているロビー展・バザーでは、利用者の作品を展示して見ていただいたり、喫茶コーナーでは、地域の方とともにぜんざいや甘酒を利用者も一緒に楽しまれた。ボランティアの方の訪問があり、利用者とお話したり、ピアノを弾いてくださり、利用者も歌を歌う等、楽しい時間を作ってくださっている。法人全体の取り組みとして、職員が地域の方のお宅を100軒ほど回り、アンケートを実施され「事業所のことを知っているか」「事業所に来たことがあるか」「認知症のことを知っているか」等、聞き取りをされた。73軒の方からお返事をいただき、職員は、アンケートを行うことで「直接、地域の方に事業所や認知症のことを話す機会となりよかった」と話しておられた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 認知症の理解に向けて、地域の方にアンケートを実施した。また、地域包括支援センターや民生委員の方と認知症人形劇に取り組んだ。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 防災訓練を実際に見てもらったり、行事にも参加してもらっている。会議での話し合いから、近くの公園のスロープ化への改善など、利用者サービスに活かされている。	事業所では、地域の方々に認知症について知っていただき「徘徊ネットワークを作りたい」と考えておられた。会議のメンバー等、地域のいろいろな立場の方に会議に参加していただき、地域の認知症の理解を上げたり、会議を活かして地域の方達とも話し合いながら、ネットワーク作りをすすめていかれてはどうか。
			(外部評価) 運営推進会議は、法人の3事業所合同で開催されている。事業所からは、行事報告や予定、年度の取り組み・目標等を知らせておられる。民生委員の方から「利用者が散歩に出かけている公園の入り口をスロープにしてみたい」と提言いただいたことがきっかけで、スロープが設置される予定になっていた。会議と合わせて防災訓練を行った際には、地域防災士や町内会の方の参加もいただいた。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議には毎回参加していただき、情報交換などをして協力関係を築いている。	
			(外部評価) 運営推進会議時、他事業所の会議開催の事例を教えてくださいました。市社協が主催の認知症啓発の人形劇やサポーター養成講座時には事業所も協力された。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 内部研修で虐待と拘束についての研修をおこなっている。玄関は夜間施錠のみで、日中は自由に出入りしてもらっている。	
			(外部評価) 頻繁に出でいられる方には、散歩の機会を多めに作ったり、ご家族と相談の上、GPSを使用して、ご本人が居る場所を確認して対応しておられる。調査訪問時、利用者が一人で出かけたことを職員同士で情報を確認し合っている様子うかがえた。「帰りたい」という利用者には、ご自宅に戻る機会を作ったり、ご自分で携帯電話を持っておられる方は、ご家族に電話をかける際には職員がサポートをされている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 理事長により虐待についての研修があり、職員としての責任と自覚を深めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在、利用者の中に、この制度の活用の該当者はおられない。昨年度、権利擁護に関して、理事長より研修があり、成年後見制度などについて学んでいる。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用相談があった時は施設見学、体験入所をしてもらっている。契約の締結、解約について、納得していただけるように十分な説明をこころがけている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の話はよく聞き「～したい」という希望をサービスに反映するようにしている。家族の自由な来訪で、その機会にお話をうかがい、必要な事は連絡ノートに記載して、職員間で共有するようにしている。 (外部評価) 法人全体で「ともの家だより」を3ヶ月に1度発行しておられる。又、毎月、利用者個々の担当職員が、ご本人の生活の様子を手書きして便りを出しておられる。法人事業所合同の「家族会」では「家族会だより」を発行されている。ご家族たちが利用者や職員の日常をご家族の視点で捉えた写真展をデパートで開催し「写真集」にして出版された。	法人全体で家族会を開催しておられるが、事業所独自でもご家族が集まるような機会を作ってみてはどうだろうか。たとえば、事業所が挙げている目標の取り組み状況をご家族たちと点検したり、話し合うような機会も作ってみてはどうだろうか。

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月、職員会議、研修会に代表者が参加して、職員の意見を聞いている。職員提言メモでその意見を反映している。 (外部評価) 看取り支援のことは、夜間や急変時の対応等について不安を感じている職員もあったようだが、職員で話し合いを重ね、不安を軽減されたようだ。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は職員がやりがいや向上心を持って働けるように、率先して研修会や委員会などを開催し、職員の意見を聞いている。また、スーパーバイザーの横山紘子氏に泊まりこみで現場指導を依頼して、職員環境整備に努めている。	
13		職員を育てる仕組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 内部研修を月1回は開催し、外部研修への参加も奨励している。新人、中堅、リーダー別の研修の機会を設けている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 近隣グループホーム交流会やサービス事業所連絡会に参加して交流や情報交換をしている。他の事業所に研修会の案内をして、参加してもらっている。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時にはケース検討会を開き、ご家族に参加していただき、利用者本人が安心して暮らせるように、話し合いをしている。また本人に寄り添うことで、信頼関係づくりに努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価)	入居前や入居時に家族と話し合う事につとめ、信頼関係が築きあえるようにしている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価)	入居開始前後に本人の事をよく知るよう努め、また、家族との話し合いで、必要としている支援を見極めている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価)	常に人生の先輩という尊厳の気持ちで接しながら、得意な分野での役割をさせていただいている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価)	本人と家族の絆を大切にしながら、共に支えていくケアパートナーと位置づけている。毎月、本人の様子を文章にして、家族へ伝えたり、各行事への参加をお願いしている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価)	本人にとって大切な馴染みの人の来訪も自由にしてもらっている。また、馴染みの場に訪れることができるようにすすめている。	
			(外部評価)		

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一緒に外出したり、同じテーブルに誘ってお茶を飲んだりしてもらって、孤立感をもたないように支援している。また、誕生会ではお祝いの言葉や歌など、みんなで祝っている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去された方のご家族にともなう家だよりや行事案内を送って、いつでも気軽に来ていただけるような関係を継続している。	
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居時、入居後と随時、本人または家族の思い、意向をお聞きして、ケアプランに反映している。また、アセスメントシートに記録して、スタッフ間で共有している。 (外部評価) 利用者の「その時の希望」を大切に支援できるよう努めておられる。すぐに対応できない場合は、「あと5分したら」と、具体的に時間を知らせて必ず対応しておられる。職員は、日々の記録から、言葉や様子を拾い出して「現状、状態、本人の対処、本人・家族の思いや希望」等の項目についてアセスメントシートに記入し、ケアのヒントにされている。又、アセスメントの更新を行った際には、記入日が分かるように色を替えておられた。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族から話をうかがって、アセスメントシートやセンター方式に記録して、把握に努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりのその日の様子を個人記録に書き、また、スタッフ間で申し送りをして、現状把握に努めている。	



## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人の担当職員が中心となって、本人、家族の意向を聞き取り、看護師や他の職員と相談して、介護計画を立てている。毎月の職員会議でも個々の利用者の現状の話し合いをしている。	
			(外部評価) 利用者ご本人が望んでいることや困っていることを目標に揚げて、利用者個々の担当職員を中心に話し合い、介護計画を作成されている。見直しは、3ヶ月毎に行っておられ、ご家族と相談しながら「ご本人が落ち着かないような時にはご家族と電話でお話しする」等、ご家族の協力を得ながらご本人の生活を支える計画も立てておられた。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別ケアの実践を意識的に行い、ノートに記録して、職員間で情報を共有しながら、日々の実践に活かし、次の介護計画にも反映させている。	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人、家族の要望におうじて、外出、外泊、家族の泊まりなど柔軟に対応している。訪問マッサージ、訪問理容、訪問歯科を受けられたり、生け花、書道などのクラブ活動にも参加している。	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 近くのスーパーに買い物に行ったり、公園でくつろがれたりされている。必要に応じて、消防署、民生委員、小学校、ボランティアの方の協力をもらっている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 各本人や家族の希望にそって、かかりつけ医を選んでもらって、訪問診療や往診、また受診をしている。医療情報は個別記録に記載している。	
			(外部評価) 協力医が毎週往診に来てくれるようになってきている。以前からのかかりつけ医にかかっておられる方もおられ、ご家族が受診に付き添われている。ご家族と話し合い、歯科医に往診していただき、定期的に口腔ケアを実施してもらっている利用者もいる。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 通常週4日、看護職員が勤務して、健康管理をおこなっている。受診、往診の対応、薬の管理、家族や介護職員からの相談に応じている。緊急時には24時間相談できる体制をとっている。	
			(外部評価)	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院、退院ともに、安心してすごせるように、病院関係者や家族と情報交換や相談をしている。	
			(外部評価)	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 家族、職員と早い段階から話しあいをおこない、方針を共有している。	
			(外部評価) 利用者のかかりつけ医と24時間連絡を取り合い、ご家族も時には泊まり協力し合って、事業所で看取りを支援された事例がある。「ご本人の居室の前を通る度に、ご本人に声かけしたり、手をさする」等、職員で支援について話し合い、共有して取り組まれた。さらに、お花がお好きな利用者には居室にお花を飾り、季節を感じられるような環境作りや臭いをかいでみる等、ご本人のお好きなことを大切にしたり取り組みをすすめられ、ご家族から感謝のお便りをいただいた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 随時、看護師による指導を受けている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防職員の指導を受けながら、消防訓練を地域の防災士、民生委員、家族とともに行った。	
			(外部評価) 法人全体で火災想定避難訓練を年2回行っておられる。6月の運営推進会議時に、夜間、事業所の台所からの火災を想定して、民生委員の方に利用者役になっていただき、職員が実際に避難させる訓練を行われた。地域の防災訓練には職員が参加し、災害のビデオを見せていただいたり、地域の危険箇所を歩いて確認をされた。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ともの家の接遇態度、援助のチェックポイントで明示して、職員はそれに基づき、一人ひとりの思いを尊重した支援をおこなっている。	
			(外部評価) 職員は、利用者とかかわる時は、利用者と目線を同じ高さにして、傍で話しかけるようにされている。又、入浴時の介助は「同性介助を基本」とし支援されている。言葉遣いや目線の高さ、言葉かけや対応について気付いたことは職員同士で伝え合うようにされている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 常に利用者の意向を第一として、自己決定ができるように配慮している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その日の勤務者が一人ひとりの希望に添えるように、個別計画を立てて、勤務に就くようにしている。また、その日の状況、その人の思いで柔軟な支援をしている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の好みの服装を選んでもらっている。だらしくならないように整容にもきをつけている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者と職員が同じ料理を同じ場で食している。騒音にならない程度で音楽をかけ、会話を食事の邪魔にならない程度の声かけにしている。片付けも出来る方には一緒にしてもらっている。	
			(外部評価) 昼食と夕食のメインのおかずは、法人の厨房から、できたものが届くようになっており、ご飯と汁物は、事業所で決めて作っておられる。事業所で、利用者の状態に合わせて刻んだり、ミキサーにかけておられる。利用者をご自分で食事ができるよう、テーブルや椅子の高さを利用者に合わせておられる。のみ込む機能が低下している利用者は、クッション等を使用して少し前屈みになるような姿勢で食事できるようにされている。食器を下膳している利用者も見られた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 健康チェック表や水分チェック表にその日の記録をして支援している。水分がとりにくい方にはゼラチンや果物などを提供したり、栄養バランスの難しい方には栄養補助食品を補っている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後の歯磨きの支援、また、歯磨きが出来ない方にはガーゼで拭き取りの口腔ケアをしている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄パターンを把握しており、利用者にあわせたトイレ誘導をして、排泄の失敗を減らすようにしている。日中はできるだけ布パンツにして、自立に向けた支援にしている。	
			(外部評価) 職員は、利用者が落ち着かない行動をする等、利用者の行動をみながらトイレに誘うようにされている。入居時、おむつを使用しておられた利用者もあったが、タイミングを捉えてトイレにお連れすることを職員で共有して支援し、トイレで排便がみられるようになった事例もある。水分にむせるような利用者には、お茶ゼリーで水分を摂れるようにされたり、便秘予防のこともあり赤飯等、小豆を使った献立を採り入れて工夫されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分や繊維食品の摂取に注意して、できるだけ自然排便に努めている。散歩や歩行、体操などの活動も心がけている。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴のお誘いは3日に1回ぐらいのペースでしているが、本人の希望に添うようにしている。重度の利用者も機械浴でなく、職員二人介助で湯船で温めてもらうようにしている。	
			(外部評価) 入浴は、午後から入浴するようになっていた。毎日入りたい利用者もおられ、出来るだけ希望に沿えるよう支援されている。好みの湯温に配慮し、ご自分で洗える部分はご自身が洗うことができるよう支援し、その後職員がサポートされている。シャンプーハットを使用して髪を洗ったり、利用者の体調によって足浴とシャワー浴で支援されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 外気浴や散歩をできるだけとりいれ、日中気分をリフレッシュしてもらって、夜間に安眠できるようにしている。	
			(外部評価)	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人の薬袋に処方されている薬名、用法、用量が記入されている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの出来る事、出来ない事を把握して、役割発揮をしていただいている。食器拭き、薪運び、洗濯物干し、窓拭き、草取りなどその都度してくださっている。買い物や散歩、生け花、習字などにも参加されている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 本人の希望に添って、いつでも自由に外出できるようにしている。玄関先でお茶タイムをしたり、ちかくの公園への散歩も日常的に行っていたりしている。近くのともの家にもお互いに行き来している。「温泉に行きたい」という希望で、道後の温泉に出かけた。	
			(外部評価) ご家族と一緒に、近くの公園に散歩に行かれる利用者もおられる。近くの商店等に買物に行きおやつを買ったり、事業所の裏の菜園で鋤うちされたり、野菜の収穫をされている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 管理不可能な方が多いが、可能な方(ひとり)には家族と相談して、お金を持っていただいている。近くのスーパーで自分の好きなものを買物されたり、喫茶店でランチを食べたりされている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族が携帯電話を用意してくださり、かけたい時にはお手伝いさせていただき、ご家族との会話を楽しんでいる。遠方のご家族からの手紙には返事を書かれるように援助している。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用の空間には利用者にとって懐かしい家具やミシンなどを置いている。リビングのまきストーブはやわらかくて温かい空間をつくっている。また、常に花を飾り、季節感を感じられるようにしている。	
			(外部評価) 事業所では「音への配慮」から、スリッパを履かず過ごしておられる。食堂の椅子の足は布で覆っておられた。玄関には、利用者が散歩時に摘んで来られた菜の花を飾り、テーブルには庭の水仙やさざんかが飾られていた。足踏み式のミシンを使ってぞうきんを縫ってくださる利用者もおられ「今後は、バザーに出すものも作っていただきたい」と話しておられた。調査訪問時、利用者がピアノで「靴がなる」を弾いておられる様子がかがえた。椅子にギターが立てかけられており、職員がギターを弾いて、利用者と一緒に歌うこともあるようだ。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングの各所にコーナーを設け、独りになれる所、気の合う人と過ごせる所など、居心地よくできるようにしている。	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族の協力により、本人が居心地よく過ごせるように、机、椅子、仏壇、鏡台など置いている。また、家族との写真や思い出の写真も飾っている。	
			(外部評価) ご自宅で使っていた鏡台や筆筒を持ち込み使っている方や、手紙が出せるようにとご家族が準備してくれたハガキも置いてあった。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレや浴室などにはプレートやのれんを掛けてわかりやすくしている。各居室には個々の表札を掛けている。	